

平成23年9月9日

土砂災害随時情報（和歌山県日置川流域） 第1号

和歌山県知事 殿

田辺市長 殿

近畿地方整備局長

河道閉塞に係る、土砂災害随時情報（第1号）についてお知らせします。

（監視施設の設置状況について）

【問い合わせ先】

国土交通省近畿地方整備局河川部河川調査官	中込 淳
国土交通省近畿地方整備局河川部河川計画課長	吉田 一 亮
国土交通省近畿地方整備局河川部河川計画建設専門官	山本 育 夫

直通06-6945-6355

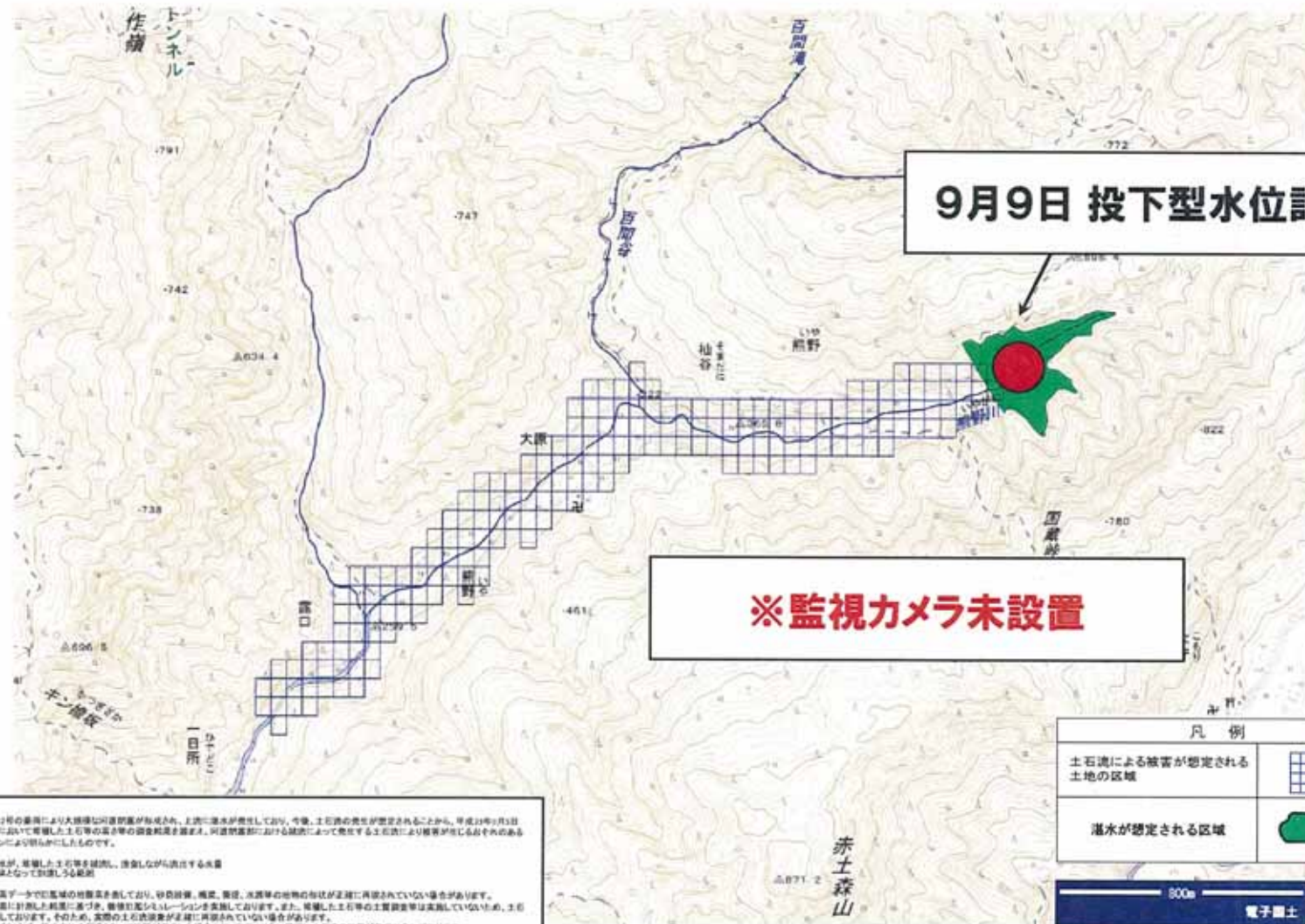
土砂災害防止法に基づく緊急調査の随時情報

【概要】

- 土砂災害防止法に基づき行っている緊急調査の状況について随時情報を公表します。
- 現在、4ヶ所の各河道閉塞箇所において監視体制の強化を行っています。
 - ・全4ヶ所において、投下型水位観測ブイの設置が完了しました。今後、毎正時の水位を公表していきます。
 - ・赤谷、栗平の下流において、監視カメラを設置し河川の状況等の監視を始めました。
 - ・赤谷については、堆積土砂の下流部から水が染みだしてありましたが、安定性について検討を行ったところ、直ちに決壊に至る可能性は低いことが確認されました。
 - ・9月9日（金）にヘリにより上空から全4ヶ所の河道閉塞について大きな変状が無いことを確認しました。
- 今後も、残り長殿、熊野の下流にカメラの設置を行うとともに、土石流発生を検知するセンサーの設置等の監視体制の強化を図っていきます。

投下型水位計及び監視カメラ設置位置について

区域名：日置川流域 田辺市熊野



【留意事項】
この図は、日置川流域 田辺市熊野において、台風19号の暴風により大規模な河川氾濫が発生し、上流に湛水が発生しており、今後、土石流の発生が想定されることから、平成30年9月3日～7日に実施したヘリコプターによる上空からの河川において確認した土石等の高台等の調査結果を基に、河川氾濫部における流域によって発生する土石流により被害が想定されるおそれのある区域を、以下の条件のもとで懸念区域シミュレーションにより明らかにしたものです。
○懸念区域シミュレーションの前提条件
土石流の発生となる条件 河川氾濫の上流の湛水が、懸念した土石等を湛出し、浸食しながら流下する水害
土石流の発生条件 河川100m以上の土石が流出し、浸食しながら流下する水害
○懸念区域シミュレーションの調査対象上の位置
懸念区域シミュレーションでは、概ね10m間隔の等高線で示した地形の精度を基に、砂防設備、橋梁、堰堤、水源地の地物の有無が正確に再現されていない場合があります。
河川氾濫を抑制している土留の存在は上空から撮影に計測した結果に基づき、懸念区域シミュレーションに反映していません。また、確認した土石等の土質調査等は実施していないため、土石の動静等を想定して懸念区域シミュレーションを実施しております。そのため、実際の土石の動静が正確に再現されていない場合があります。
他の河川との合流による河川水の増大は考慮していません。洪水中に土石流となって氾濫が発生した場合、洪水より高い範囲に土石流の氾濫が及ぶおそれがあります。

④和歌山県日置(ひき)川流域熊野(いや)

